

バーコードハンドブック 使い方ガイド

バーコード活用編

バーコードフォント無償ダウンロード

バーコード入門編

バーコード活用編

バーコード応用編

バーコードフォント無償ダウンロード

テクニカルHP

Barcode HandBooks
バーコード応用編 USB
BARScan

第2章

[TOP](#)

第1章 Accessでバーコードを利用するメリット

1: Accessを使うとこんなバーコードが作成できる! | 2: Excelとの違いとAccessでバーコードを作成するメリット |

1 : Accessを使うとこんなバーコードが作成できる!

Accessには、フォームやレポートにバーコードを表示するための「Microsoft バーコードコントロール」というツールが標準で用意されています。このツールを使うと、バーコードを使った印刷物を簡単に作成することができます。ここでは、Accessのレポートにバーコードコントロールを配置すると、どのようなバーコード付きの印刷物を作成できるのかを見ていきましょう。

※ここで紹介したそれぞれのサンプルの作成方法は、第3章で詳しく解説しています。



◎商品の値札

お買得割引クーポン券 有効期間：2006年4/28(金)→5/1(月)
それぞれのクーポン券はレジでの精算の際に切り離してご利用ください。

		デジタルキッチングス ケール 出店平日価格 3,000 お一人様 1 個限り!!	520 円 割引券 ※クーポン有効期限 5/1(月)
		陳建一四川包丁セット 出店平日価格 3,500 お一人様 1 個限り!!	1,520 円 割引券 ※クーポン有効期限 5/1(月)
		フラッツケトル 出店平日価格 3,500 お一人様 1 個限り!!	1,020 円 割引券 ※クーポン有効期限 5/1(月)
		快速圧力IH200V対応底平 いため鍋	640 円 割引券

それぞれのクーポン券は切り離して使用できる

商品コードを
バーコードで表す

◎割引クーポン券

仕入先台帳

バーコード	仕入先CD 〒	仕入先名 住所 住所2	電話番号	FAX番号	支払い条件
	H-001 0530051	ホワイトプラン 北海道苫小牧市明野元町6-66-666	0134-99-6666	0134-99-6667	締日 支払月 支払日 15 1 15
	H-002 0060024	星崎製菓 北海道札幌市手稲区手稲本町四条4-44-444 手稲本町ビル3F	011-111-6666	011-111-6667	締日 支払月 支払日 10 3 1
	I-001 6390264	インタークラブ 奈良県香芝市今泉8-58-100	0744-55-5555	0744-55-5556	締日 支払月 支払日 5 0 31
	K-001	川上物産	0778-44-0000	0778-44-0001	

それぞれの仕入先を一覧表形式で印刷する

仕入先コードを
バーコードで表す

◎仕入先台帳

株式会社シリウス

開発部 開発1課
チーフ

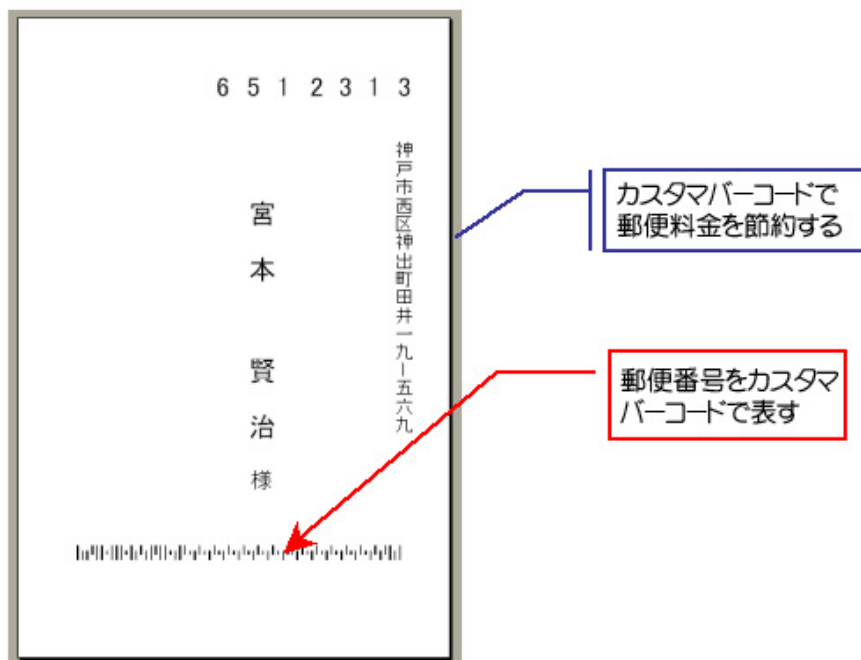
村上 恵子

神戸市中央区海岸通6-23
TEL 078(123)4567 FAX 078(123)9876

名札を読み取って
勤怠管理で利用する

社員コードを
バーコードで表す

◎社員の名札



◎顧客向けDMハガキ

[テクニカル トップページ](#)|[各種製品のご案内](#)|[製品価格一覧表](#)|[製品の修理について](#)|[お問い合わせ](#)

バーコードハンドブック 使い方ガイド

[バーコード入門編](#)[バーコード活用編](#)[バーコード応用編](#)[バーコードフォント無償ダウンロード](#)[テクニカルHP](#)

Barcode HandBooks USB BARScan バーコード応用編

[第1章](#)[第2章](#)[第3章](#)[TOP](#)

第1章 Accessでバーコードを利用するメリット

[1：Accessを使うとこんなバーコードが作成できる！](#) | [2：Excelとの違いとAccessでバーコードを作成するメリット](#) |

2：Excelとの違いとAccessでバーコードを作成するメリット

通常、Excelにはバーコードを作成するための機能が用意されていないために、バーコードを作成するには専用のソフトウェアやバーコード用フォントを使うなどの工夫が必要です(Excelでバーコードを作成する方法の詳細は「BARCODE HANDBOOK 2 バーコード活用編」を参照)。しかし、Accessの場合は前項のサンプルのように、Excelでは表現できなかった多彩なバリエーションのバーコードを作成することが可能になります。

「バーコードの作成」というテーマでAccessとExcelを比較すると、両者には次のような違いがあります。

◎バーコード作成におけるAccessとExcelの違い

比較項目	Excel	Access
導入のしやすさ	×（バーコード用フォントまたは専用のソフトウェアが必要）	◎（バーコード作成ツールが標準で用意されている）
利用可能なバーコード	△（個々のソフトウェアに依存する）	○（主要なバーコードが利用可能）
カスタマイズの柔軟性	△（個々のソフトウェアに依存する）	○（外観を自由に変更可能）
レイアウトの柔軟性	△（自由な位置に配置しにくい）	◎（自由な位置に配置できる）

◆Accessでバーコードを利用するメリット

上記の「違い」から見てわかるように、Accessでバーコードを作成する場合は、次のようなメリットがあると言えるでしょう。

★導入が簡単

バーコード用フォントやバーコード作成用ソフトなどの外部ツールを使わなくても、アプリケーションに標準で用意されている機能でバーコードの表示や印刷を行うことができます。

★主要なバーコードがサポートされている

JAN・NW-7・UPC・CODE39・CODE128やISBN・POSなどの幅広いコードに対応しているので、用途に合わせたバーコードを柔軟に作成できます。

★カスタマイズしやすい

バーコードの太さ、向き、データの修正など、ユーザーのニーズに合わせて印刷形式を自由にカスタマイズできます。

★自由なレイアウトで印刷できる

Excelを使って作成したバーコードの場合は印刷可能なレイアウトが限られているために自由な配置で印刷することが難しい面があります。しかし、Accessの場合は強力なレポート作成機能を使って、ユーザーがバーコードの位置やサイズなどを自由に配置して印刷することができます。

[テクニカル トップページ](#)|[各種製品のご案内](#)|[製品価格一覧表](#)|[製品の修理について](#)|[お問い合わせ](#)

バーコードハンドブック 使い方ガイド

[バーコード入門編](#)[バーコード活用編](#)[バーコード応用編](#)[バーコードフォント無償ダウンロード](#)[テクニカルHP](#)

Barcode HandBooks USB BARScan バーコード応用編

[第1章](#)[第2章](#)[第3章](#)[TOP](#)

第2章 バーコード印刷のための基礎知識

[1：レポートにバーコードの表示](#) | [2：バーコードの印刷サイズの変更](#) | [3：バーコードの種類の変更](#)
[4：バーコードの基のデータの値を隠す](#) | [5：バーコードの向きをカスタマイズ](#) | [6：Excelのデータをバーコードで利用出来るようにする](#)

1：レポートにバーコードの表示

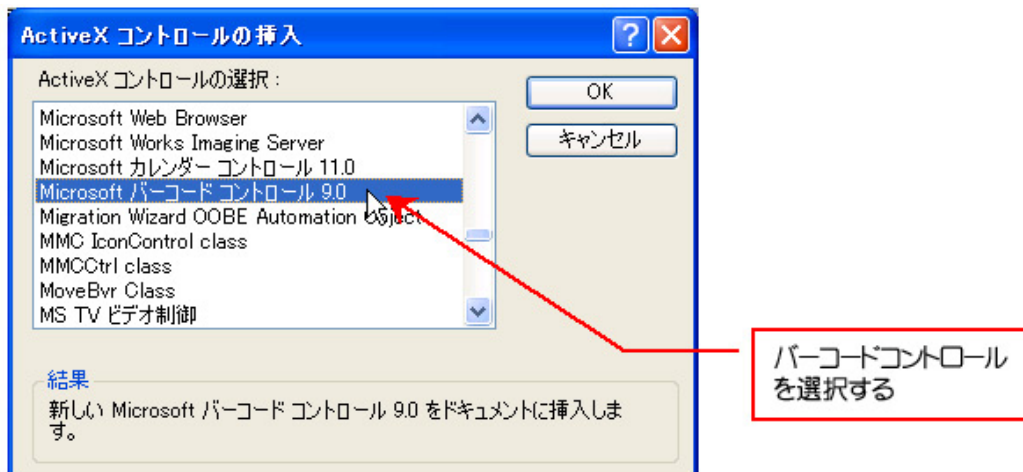
「バーコードコントロール」とは、バーコードを印刷したり表示したりするためのActiveXコントロールです。このコントロールをレポートの指定した位置に配置すると、特定のフィールドの値をバーコードで表示させることができます。これから、このコントロールを使って「ラベル_特売商品」というレポートに、基となるテーブルの「JANコード」フィールドの値をバーコードで表示させてみましょう。

手順2：「バーコードコントロール」の選択

・「ActiveXコントロールの挿入」ダイアログボックスの一覧の中から「Microsoftバーコードコントロール9.0」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

※Access97の場合は「Microsoft バーコードコントロール」を、Access2000の場合は「Microsoft BarCode Control9.0」を選択します。

※この操作を行うと、レポートの左上の箇所にバーコードコントロールが挿入されます。



【手順3：挿入したバーコードコントロールの配置】

・挿入したバーコードコントロールの上をマウスでドラッグして目的の位置に配置します。



【手順4：バーコードコントロールのオブジェクトのプロパティの表示】

- ・バーコードコントロールの上で右クリックし、[Microsoftバーコードコントロール9.0オブジェクト(O)]→[プロパティ(P)]を選択します。

※Access97の場合は[Microsoft バーコードコントロール オブジェクト(O)]→[プロパティ(P)]を、Access2000の場合は[Microsoft BarCode Control9.0オブジェクト(O)]→[プロパティ(P)]を選択します。

【手順5：表示するバーコードの種類の指定】

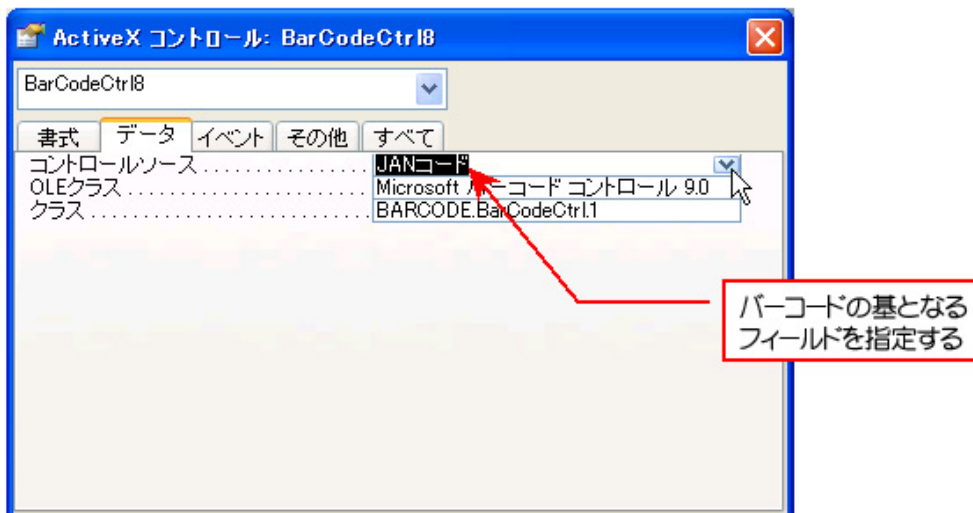
- ・「Microsoft バーコードコントロール9.0のプロパティ」ダイアログボックスの「全般」タブをクリックします。
 - ・[スタイル(S)]に「2-JAN-13」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。
- ※ここでは、JANの13桁コードのデータをバーコードで表示することとします。

【手順6：バーコードコントロールのプロパティの表示】

- ・バーコードコントロールの上で右クリックし、[プロパティ(P)]を選択します。

【手順7：バーコードの基となるデータの指定】

- ・「ActiveXコントロール」プロパティのダイアログボックスの「データ」タブをクリックします。
 - ・[コントロールソース]プロパティに「JANコード」を選択し、ダイアログボックスを閉じます。
- ※ここでは、「JANコード」フィールドの値をバーコードで表示することとします。



ポイント

◇バーコードを表示させるときの注意点

バーコードコントロールとは、フォームやレポートにバーコードを表示させるためのActiveXコントロールです。レポートに挿入したバーコードコントロールは、「コントロールソース」プロパティに参照先のフィールド名を指定することで、このフィールドの値がバーコードとして表示されます。なお、バーコードを表示する際は、基のフィールドの入力データに適したバーコードの規格を選択しないと、正しく表示できない場合があるので注意が必要です。たとえば、JANの13桁コードを表示させたいときは、基のフィールドに13桁以外の数字が入力されている場合や、英字や記号などが混じっている場合は正しく表示されません。

バーコードハンドブック 使い方ガイド

[バーコード入門編](#)[バーコード活用編](#)[バーコード応用編](#)[バーコードフォント無償ダウンロード](#)[テクニカルHP](#)

Barcode HandBooks USB BARScan バーコード応用編

[第1章](#)[第2章](#)[第3章](#)[TOP](#)

第2章 バーコード印刷のための基礎知識

[1：レポートにバーコードの表示](#) | [2：バーコードの印刷サイズの変更](#) | [3：バーコードの種類の変更](#)
[4：バーコードの基のデータの値を隠す](#) | [5：バーコードの向きをカスタマイズ](#) | [6：Excelのデータをバーコードで利用出来るようにする](#)

2：バーコードの印刷サイズの変更

レポートに挿入したバーコードのサイズは、バーコードコントロールをクリックしたときに周囲の枠線に表示されるサイズハンドル(■)をマウスでドラッグすることで変更することができます。このとき、四隅に表示されたサイズハンドルを斜め方向にドラッグすると、縦横のサイズを同時に変更できます。また、縦線上にあるサイズハンドルは水平方向にドラッグすることで横幅を、横線上にあるサイズハンドルは垂直方向にドラッグすることで高さを変更できるので、バーコードの高さや幅を別々に調整したいときに使うと良いでしょう。なお、バーコードのサイズをあまり小さくし過ぎると、正しく読み込めなくなる場合があるので注意が必要です。



◇バーコードの線の太さを調整するコツ

バーコードのサイズを変更した後で、正しく読めなくなった場合は、バーコードの線の太さを調整してみると改善されることがあります。線の太さは、使用するプリンタや用紙の種類によって異なるため、印刷時のバーが太すぎる場合は細めの線を選択し、逆に印刷時のバーが細すぎる場合は太めの線を選択するのがコツです。通常、バーコードには十分な許容差が設けられているため、印刷されたバーコードを実際にバーコードリーダーで読み取ってみて、線の太さを調節するのが良いでしょう。

線の変更するには、バーコードコントロールの上で右クリックして[Microsoftバーコードコントロール9.0オブジェクト(O)]→[プロパティ(P)]を選択し、表示された「Microsoft バーコードコントロール9.0のプロパティ」ダイアログボックスの「全般」タブ内にある[線の太さ(W)]から目的の太さを選択します。ここでは、線の太さを0.02mm単位で調整できます。ただし、カスタムバーコードの場合は、バーコードの特性上プリンタの最小ピクセル単位になります(最小ピクセル単位は、プリンタがサポートするDPIサイズによって異なる)。

[テクニカル](#) | [トップページ](#) | [各種製品のご案内](#) | [製品価格一覧表](#) | [製品の修理について](#) | [お問い合わせ](#)

バーコードハンドブック 使い方ガイド

[バーコード入門編](#)[バーコード活用編](#)[バーコード応用編](#)[バーコードフォント無償ダウンロード](#)[テクニカルHP](#)

Barcode HandBooks USB BARScan バーコード応用編

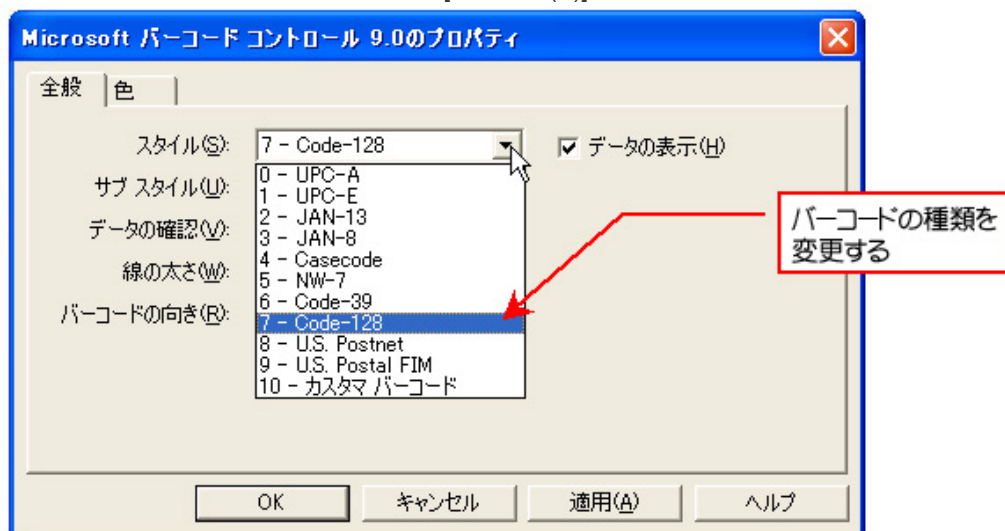
[第1章](#)[第2章](#)[第3章](#)[TOP](#)

第2章 バーコード印刷のための基礎知識

[1：レポートにバーコードの表示](#) | [2：バーコードの印刷サイズの変更](#) | [3：バーコードの種類の変更](#)
[4：バーコードの基のデータの値を隠す](#) | [5：バーコードの向きをカスタマイズ](#) | [6：Excelのデータをバーコードで利用出来るようにする](#)

3：バーコードの種類の変更

バーコードコントロールでは、あらかじめ用意されている11種類のバーコードの規格から、用途に合ったバーコードの種類を選択することができます。また、レポートに挿入したバーコードは、後から種類を変更することも可能です。レポートに挿入したバーコードの種類を変更するには、バーコードコントロールの上で右クリックして[Microsoftバーコードコントロール9.0オブジェクト(O)]→[プロパティ(P)]を選択し、表示された「Microsoft バーコードコントロール9.0のプロパティ」ダイアログボックスの「全般」タブ内にある[スタイル(S)]から目的のバーコードを選択します。



バーコードコントロールでは、一般的に普及している次のような11種類の規格のバーコードを[スタイル(S)]の中から選択することができます。

◎利用可能なバーコード規格の種類

[スタイル(S)]の値	バーコード規格	用 途
0 - UPC-A	UPC-A	商品のマーキングに広く使用されているPOSシンボルで、米国とカナダで利用されている。
1 - UPC-E	UPC-E	UPCの短縮バージョンで、標準バージョンのシンボルが印刷できないような小さい商品に使用する。
2 - JAN-13	JAN-13	国際規格のPOSシンボルで、書籍や雑誌などを含め、すべての商品に使用する。
3 - JAN-8	JAN-8	JANの短縮バージョンで、標準バージョンのシンボルが印刷できないような小さい商品に使用する。
4 - Cascode	Cascode	製造会社や卸し売り会社が小売り店に商品を出荷するとき、梱包箱の外側に表示するシンボル。
5 - NW-7	NW-7(CODABAR)	英数字を表現できるシンボルで、コンピュータ機器などの特殊な商品のパッケージに表示する。

6 - Code-39	CODE39	英数字と記号を表現できるシンボルで、FA(Factory Automation)をはじめ、工業用として広く使用されている。
7 - Code-128	CODE128	フルASCIIの128文字をコード化したで、圧縮バージョンもある。
8 - US Postnet	US Postnet	処理を自動化するために郵便物に表示するシンボルで、米国で利用されている。
9 - US Postal FIM	US Postal FIM	処理を自動化するために郵便物に表示する特殊なシンボルで、米国で利用されている。
10 - カスタマバーコード	カスタマバーコード	処理を自動化するために郵便物に表示するシンボルで、日本で利用されている。

[テクニカル](#) [トップページ](#) | [各種製品のご案内](#) | [製品価格一覧表](#) | [製品の修理について](#) | [お問い合わせ](#)

バーコードハンドブック 使い方ガイド

[バーコード入門編](#)[バーコード活用編](#)[バーコード応用編](#)[バーコードフォント無償ダウンロード](#)[テクニカルHP](#)

Barcode HandBooks USB BARScan バーコード応用編

[第1章](#)[第2章](#)[第3章](#)[TOP](#)

第2章 バーコード印刷のための基礎知識

[1：レポートにバーコードの表示](#) | [2：バーコードの印刷サイズの変更](#) | [3：バーコードの種類の変更](#)
[4：バーコードの基のデータの値を隠す](#) | [5：バーコードの向きをカスタマイズ](#) | [6：Excelのデータをバーコードで利用出来る様にする](#)

■ 4：バーコードの基になるデータの値を隠す

レポートに挿入したバーコードは、初期設定では連結したフィールドの値がバーコードの下に表示されますが、用途によって値を表示させたくない場合もあります。この場合、バーコードコントロールのプロパティで値を表示させないようにすることもできます。バーコードの下に値を表示させないようにするには、バーコードコントロールの上で右クリックして[Microsoftバーコードコントロール9.0オブジェクト(O)]→[プロパティ(P)]を選択し、表示された「Microsoft バーコードコントロール9.0のプロパティ」ダイアログボックスの「全般」タブ内にある[データの表示(H)]をOFFにします。外部に知られたくないコードなどは、この方法で隠しておく安全です。



[テクニカル](#) | [トップページ](#) | [各種製品のご案内](#) | [製品価格一覧表](#) | [製品の修理について](#) | [お問い合わせ](#)

バーコードハンドブック 使い方ガイド

[バーコード入門編](#)[バーコード活用編](#)[バーコード応用編](#)[バーコードフォント無償ダウンロード](#)[テクニカルHP](#)

Barcode HandBooks USB BARScan バーコード応用編

[第1章](#)[第2章](#)[第3章](#)[TOP](#)

第2章 バーコード印刷のための基礎知識

[1：レポートにバーコードの表示](#) | [2：バーコードの印刷サイズの変更](#) | [3：バーコードの種類の変更](#)
[4：バーコードの基のデータの値を隠す](#) | [5：バーコードの向きをカスタマイズ](#) | [6：Excelのデータをバーコードで利用出来るようにする](#)

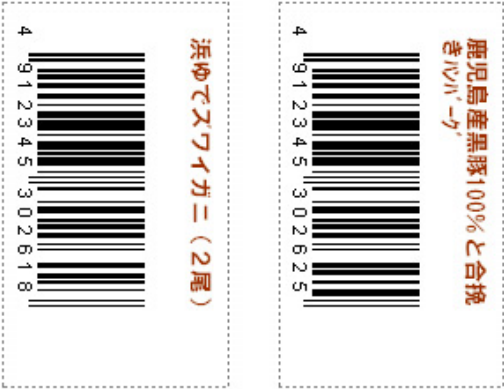
5：バーコードの向きをカスタマイズ

レポートに配置したバーコードコントロールでは、用途に応じてバーコードの印刷の向きを変更することができます。たとえば、バーコードの表示を270度回転させるには、バーコードコントロールの上で右クリックして[Microsoftバーコードコントロール9.0オブジェクト(O)]→[プロパティ(P)]を選択し、表示された「Microsoft バーコードコントロール9.0のプロパティ」ダイアログボックスの「全般」タブ内にある[バーコードの向き(R)]から「3-270度」を選択します。このとき、バーコードとテキストボックスを並べて配置している場合は、テキストボックスの文字の角度もバーコードと揃えておくとも見た目のバランスが良くなります。この場合、テキストボックスにはフォント名の先頭に「@」が付くフォント（文字の向きを垂直に回転させたフォント）を指定し、[縦書き]プロパティの値を「はい」に設定するのがコツです。

◎バーコードの向きをカスタマイズする



◎印刷結果



[テクニカル](#) [トップページ](#) | [各種製品のご案内](#) | [製品価格一覧表](#) | [製品の修理について](#) | [お問い合わせ](#)

バーコードハンドブック 使い方ガイド

[バーコード入門編](#)[バーコード活用編](#)[バーコード応用編](#)[バーコードフォント無償ダウンロード](#)[テクニカルHP](#)

Barcode HandBooks USB BARScan バーコード応用編

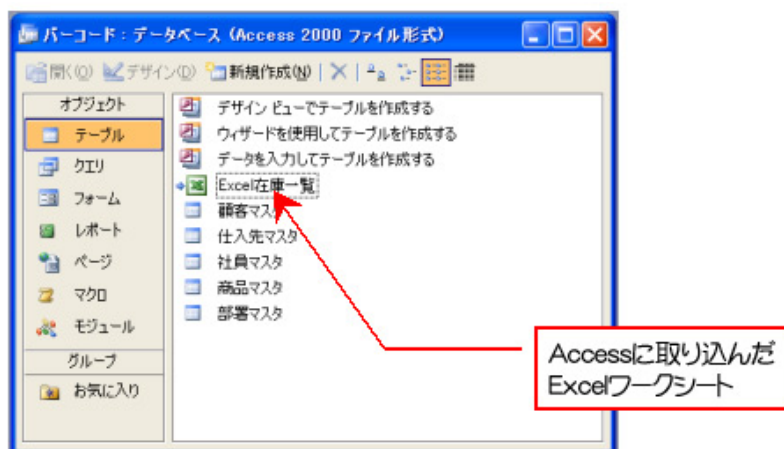
[第1章](#)[第2章](#)[第3章](#)[TOP](#)

第2章 バーコード印刷のための基礎知識

[1：レポートにバーコードの表示](#) | [2：バーコードの印刷サイズの変更](#) | [3：バーコードの種類の変更](#)
[4：バーコードの基のデータの値を隠す](#) | [5：バーコードの向きをカスタマイズ](#) | [6：Excelのデータをバーコードで利用出来る様にする](#)

6：Excelのデータをバーコードで利用出来る様にする

Accessでは、Excelのワークシートのデータを読み込んで、フォームやレポートに反映することができます。この機能は「リンクテーブル」と呼ばれ、既存のデータ資産を有効に活用したいときに使います。ここでは、「マイドキュメント」フォルダに保存した「在庫一覧.xls」というExcelブックの「Sheet1」シートの内容をリンクテーブルとして取り込んで、Access側から利用できるようにする方法を解説します。



【手順1：テーブルの新規作成】

- データベースウィンドウにある[新規作成(N)]ボタンをクリックします。

【手順2：テーブルのリンクの選択】

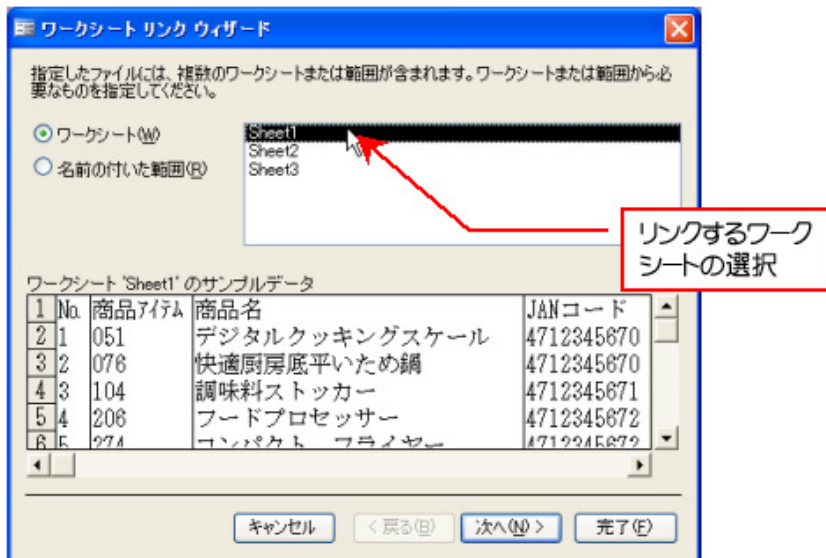
- 「新しいテーブル」ダイアログボックスの一覧の中から「テーブルのリンク」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

【手順3：リンクするテーブルの選択】

- 「リンク」ダイアログボックスの[ファイルの場所(I)]には「マイドキュメント」フォルダを選択します。
 - [ファイルの種類(T)]には「Microsoft Excel」を選択します。
 - 表示された一覧の中から「在庫一覧.xls」を選択し、[リンク(K)]ボタンをクリックします。
- ※この後、ワークシートリンクウィザードが起動します。

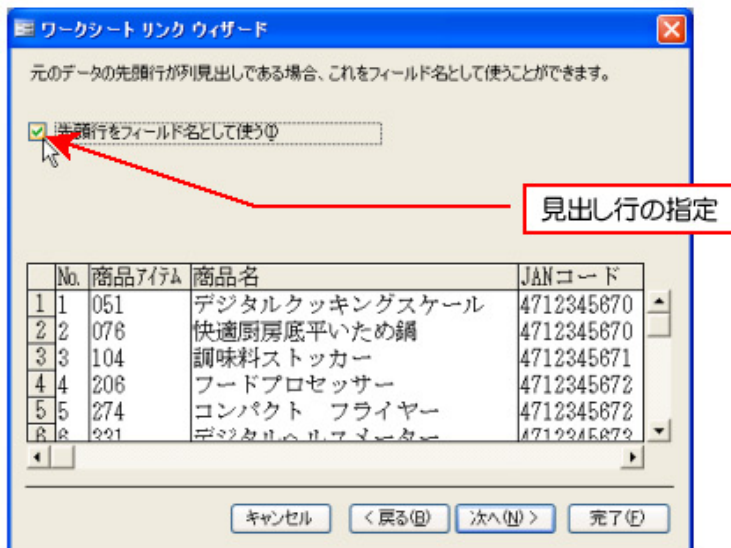
【手順4：リンク先となるワークシートの選択】

- 表示されたワークシートリンクウィザードの画面から、[ワークシート(W)]をONにして「Sheet1」を選択し、[次へ(N)]ボタンをクリックします。



【手順5：見出し行の指定】

- ・[先頭行をフィールド名として使う(I)]をONにして、[次へ(N)]ボタンをクリックします。
- ※ここでは、「在庫一覧.xls」では先頭行に見出し(それぞれの項目名)が入力されていることとします。



【手順6：リンクテーブルの完成】

- ・[リンクしているテーブル名]に「Excel在庫一覧」と入力し、[完了(F)]ボタンをクリックします。
 - ・「テーブル'Sheet1'を……リンクしました」というメッセージに対し、[OK]ボタンをクリックします。
- この後、フォームやレポートを作成する際のレコードソースに、Excelのリンクテーブルを指定しておくと、Excelのデータをフォームやレポートで表示させることができます。

ポイント

◇リンクテーブルの特徴

リンクテーブルとは、他のデータベースやアプリケーションのデータを取り込んで、あたかもAccessのテーブルのように利用できるようにする機能です。作成したリンクテーブルは、通常のテーブルと同じように、フォームやレポートで参照して利用することができます。

リンクテーブルとして取り込んだExcelワークシートは、Accessのデータベース内に保存されるのではなく、基のワークシートの内容をAccessがそのつど参照する形式で利用されます。したがって、基のワークシートをExcelで変更すると、Accessで表示される内容も変更され、Accessから内容を変更すると基のワークシートの内容も変更されます。なお、リンクテーブルでは、フィールド名やデータ型などの設定内容を変更することはできません。

◎リンクテーブルの特徴

バーコードハンドブック 使い方ガイド

[バーコード入門編](#)[バーコード活用編](#)[バーコード応用編](#)[バーコードフォント無償ダウンロード](#)[テクニカルHP](#)

Barcode HandBooks USB BARScan バーコード応用編

[第1章](#)[第2章](#)[第3章](#)[TOP](#)

第3章 バーコード徹底活用事例集

- 1：【実践サンプル1】同時に24枚印刷可能な値札バーコードの作成
- 2：【実践サンプル2】切取可能なクーポン形式のバーコードの作成
- 3：【実践サンプル3】英字や記号が混ざったデータのバーコードの作成
- 4：【実践サンプル4】少ないスペースでコンパクトに印刷できるバーコードの作成
- 5：【実践サンプル5】郵便料金を節約できるカスタムバーコードの作成

1：【実践サンプル1】同時に24枚印刷可能な値札バーコードの作成

レポートを印刷する際には、ページ設定でレイアウトの「行列設定」を調整することで、1枚の用紙内で複数の列や行を使ったラベルを作成することができます。ここでは、A4用紙に「縦4×横6」の計24枚の値札を配置したバーコードラベルを印刷する方法を解説します。

◎ここで作成する印刷物



「縦4×横6」の計24枚
の値札を配置する

◆作成までの流れ

レポートのデザインビューから、次のような値札ラベルのレポートを作成します。このレポートに配置したバーコードコントロールには「JANコード」という名前を付けて、レコードソースの「JANコード」フィールドの値を連結しておきます。また、詳細セクションの表示サイズいっぱいには四角形を重ねて、「背景スタイル」に「透明」を、「境界線スタイル」に「点線1」を設定します。こうすることで、ラベルの周囲に枠線(点線)が表示されて、個々のラベルが切り取りやすくなります。



◎バーコードコントロールのプロパティ

項目	値
[スタイル(S)]	2-JAN13
[サブスタイル(U)]	0-標準
[データの確認(V)]	0-確認なし
[線の太さ(W)]	3-標準
[バーコードの向き(R)]	0-0度

次に、作成した値札ラベルをA4用紙に「縦4×横6」の24枚分だけ印刷できるように、ツールメニューから[ファイル(F)]→[ページ設定(U)]を選択し、「レイアウト」タブをクリックして次の図のような内容を設定します。

※ここでは、用紙サイズに「A4」を設定し、上14ミリ、下14ミリ、左14ミリ、右7ミリの余白を設定していることとします。

◎「レイアウト」タブの設定内容

ポイント

このサンプルでは、[行列指定]の[列数(C)]に「4」を指定しているのがポイントです。これにより、作成した値札ラベルの内容を、1枚の用紙内に「縦4×横6」の24枚分だけ印刷できるようになります。なお、用紙内に印刷可能な行数はレポートの高さの値により変化します。このサンプルのラベルの場合は、用紙とラベルの高さの比率により印刷可能な行数は「6」になっています。

また、サンプルでは[行間隔(W)]と[列間隔(U)]にそれぞれ0以上の値を設定することで、それぞれの値札ラベルに少し間を空けて印刷しています。なお、値札ラベルの間に隙間を空けずにギッシリ詰めて印刷したい場合は、これらの値を「0」にしておきます。

バーコードハンドブック 使い方ガイド

[バーコード入門編](#)[バーコード活用編](#)[バーコード応用編](#)[バーコードフォント無償ダウンロード](#)[テクニカルHP](#)

Barcode HandBooks USB BARScan バーコード応用編

[第1章](#)[第2章](#)[第3章](#)[TOP](#)

第3章 バーコード徹底活用事例集

- 1: [【実践サンプル1】同時に24枚印刷可能な値札バーコードの作成](#)
- 2: [【実践サンプル2】切取可能なクーポン形式のバーコードの作成](#)
- 3: [【実践サンプル3】英字や記号が混ざったデータのバーコードの作成](#)
- 4: [【実践サンプル4】少ないスペースでコンパクトに印刷できるバーコードの作成](#)
- 5: [【実践サンプル5】郵便料金を節約できるカスタマバーコードの作成](#)

2: 【実践サンプル2】切取可能なクーポン形式のバーコードの作成

クーポン券や抽選券のように、先頭の券(見出し)の下に同じデザインで中身が異なる券を何枚も付けて印刷したい場合は、レポートのページヘッダーと詳細セクションを使い分けるのがコツです。ここでは、有効期限を記した「お買得割引クーポン券」という券の下に、それぞれの商品のバーコード付き割引クーポン券を連続して印刷させる方法を解説します。

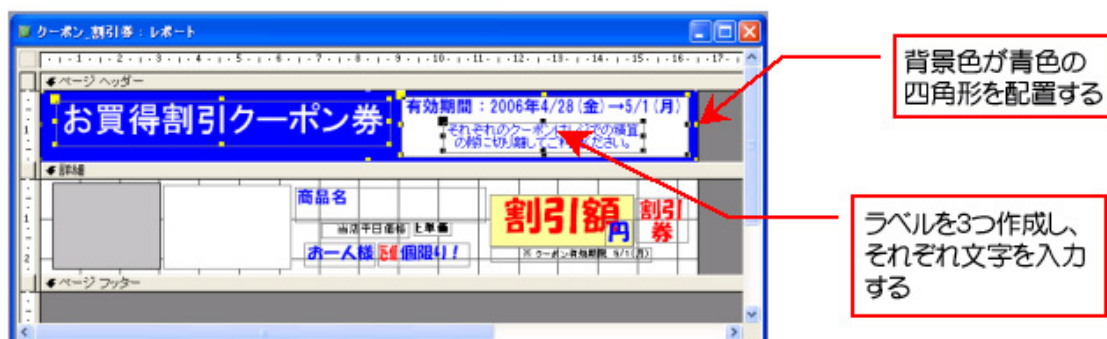
◎ここで作成する印刷物



◆作成までの流れ

レポートのデザインビューから、次のような割引クーポン券のレポートを作成します。このサンプルでは、先頭の券(見出し)の部分に表示させる内容は常に固定となるため、この部分を「ページヘッダー」セクションに作成します。ここでは、セクションと同じサイズの四角形(背景色を青色に設定)を作成し、この上に3つのラベルを配置して文字を入力しておきます。このとき、文字の色を背景色と同じ色にして、使用する色を単色にすることで、シンプルでメリハリのきいたデザインとなります。

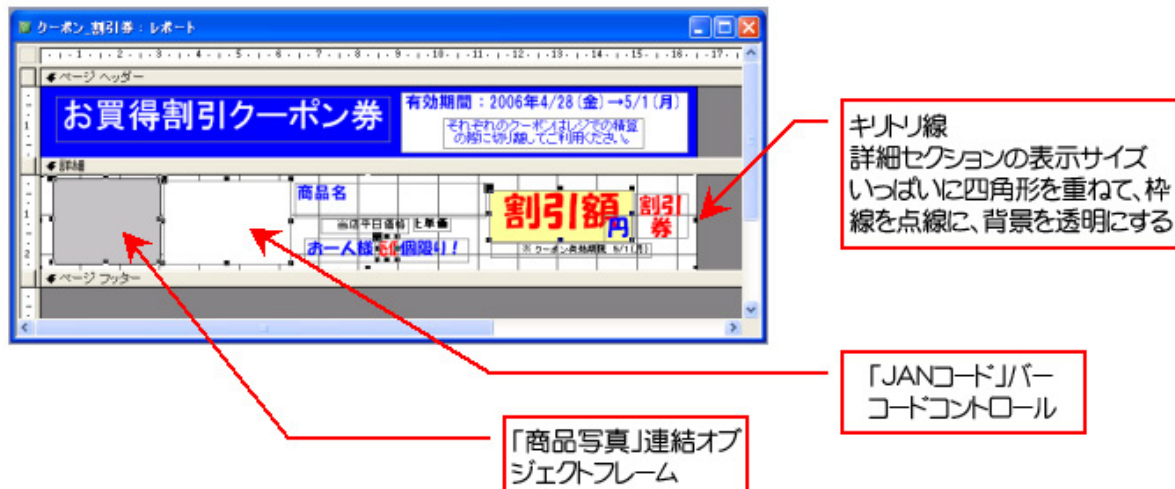
◎「ページヘッダー」セクションの内容



また、個々のクーポン券の部分は、各商品レコードの内容を個別に表示させるために「詳細」セクションに作成します。こ

のとき、それぞれのクーポン券は切り離して使用できるように、券の周囲にキリトリ線(点線)を表示しておきます。サンプルでは、詳細セクションの表示サイズいっぱいには四角形を重ねて、「背景スタイル」に「透明」を、「境界線スタイル」に「点線1」を設定することで、それぞれの券の周囲にキリトリ線を印刷しています。

◎「詳細」セクションの内容



詳細セクションの表示サイズいっぱいには四角形を重ねて、枠線を点線に、背景を透明にする

◎バーコードコントロールのプロパティ

項目	値
[スタイル(S)]	2-JAN13
[サブスタイル(U)]	0-標準
[データの確認(V)]	0-確認なし
[線の太さ(W)]	3-標準
[バーコードの向き(R)]	0-0度



このレポートでは、「お買得割引クーポン券」と記した先頭の券(見出し)の部分を「ページヘッダー」セクションに、切り離して使うクーポン券の部分を「詳細」セクションに作成するのがポイントです。このように「ページヘッダー」セクションを使うと、ページが変わるごとに先頭に特定の内容を表示できるので、見出し付きのクーポン券を作成するときに便利です。

[テクニカル](#) [トップページ](#) [各種製品のご案内](#) [製品価格一覧表](#) [製品の修理について](#) [お問い合わせ](#)

バーコードハンドブック 使い方ガイド

[バーコード入門編](#)[バーコード活用編](#)[バーコード応用編](#)[バーコードフォント無償ダウンロード](#)[テクニカルHP](#)

Barcode HandBooks USB BARScan バーコード応用編

[第1章](#)[第2章](#)[第3章](#)[TOP](#)

第3章 バーコード徹底活用事例集

- 1: [【実践サンプル1】同時に24枚印刷可能な値札バーコードの作成](#)
- 2: [【実践サンプル2】切取可能なクーポン形式のバーコードの作成](#)
- 3: [【実践サンプル3】英字や記号が混ざったデータのバーコードの作成](#)
- 4: [【実践サンプル4】少ないスペースでコンパクトに印刷できるバーコードの作成](#)
- 5: [【実践サンプル5】郵便料金を節約できるカスタムバーコードの作成](#)

3: 【実践サンプル3】英字や記号が混ざったデータのバーコードの作成

バーコードを出力する際に、基となるフィールドの値に英数字や記号が混在している場合は、「CODE39」という規格のバーコードを使います。ここでは、入力値に英数字や記号が混在している仕入先コードの内容を、CODE39規格のバーコードで表示させて一覧形式で印刷する方法を解説します。

仕入先台帳				
バーコード	仕入先CD	仕入先名 住所1 住所2	電話番号	FAX番号
	H-001	ホワイトプラン 0530051 北海道苫小牧市明野元町6-66-666	0134-99-6666	0134-99-6667
				締日 支払月 支払日 15 1 25
	H-002	星崎製菓 0060024 北海道札幌市手稲区手稲本町四条4-44-444	011-111-6666	011-111-6667
		手稲本町ビル3F		締日 支払月 支払日 10 1 17
	I-001	インタークラブ 6390264 奈良県香芝市今泉8-58-100	0744-55-5555	
				締日 5 1 31
	K-001	川上物産	0778-44-0000	0778-44-0001

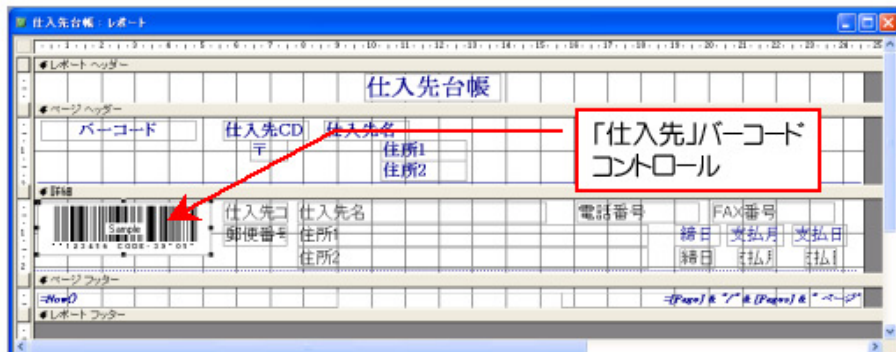
仕入先コード(値に英数字
や記号が混じっている)

仕入先コードのバーコード

◆作成までの流れ

レポートのデザインビューから、次のような仕入先台帳のレポートを作成します。このレポートでは、レポート作成の際に「オートレポート：表形式」を選択して作成したレポートをもとに、フォントのサイズや各コントロールの位置を変えて体裁を整えています。

「詳細」セクションの左端には、「仕入先コード」フィールドの値をコントロールソースにした「仕入先」バーコードコントロールを配置して、次のようなプロパティを設定しています。ここでは、「CODE39」規格のバーコードを表示させるために[スタイル(S)]には「6-Code-39」を指定します。



◎バーコードコントロールのプロパティ

項目	値
[スタイル(S)]A	6-Code-39
[サブスタイル(U)]	空白
[データの確認(V)]	1-スタート/ストップ文字を付加
[線の太さ(W)]	3-標準
[バーコードの向き(R)]	0-0度

◆「CODE39」規格のバーコードを使うときの注意点

「CODE39」規格ではバーコードの基になる値の前後に「＊」(アスタリスク)を付加する必要があります。この「＊」は入力値の開始と終了を識別するときに使われ、「スタート/ストップ文字」とも呼ばれています。サンプルでは、この仕様に対応するために、[データの確認(V)]に「1-スタート/ストップ文字を付加」を指定しています。この設定を行うと、バーコードの下に表示されるデータの前後に「＊」が自動的に付加されます。

[テクニカル](#) [トップページ](#)|[各種製品のご案内](#)|[製品価格一覧表](#)|[製品の修理について](#)|[お問い合わせ](#)

バーコードハンドブック 使い方ガイド

[バーコード入門編](#)[バーコード活用編](#)[バーコード応用編](#)[バーコードフォント無償ダウンロード](#)[テクニカルHP](#)

Barcode HandBooks バーコード応用編 USB BARScan

[第1章](#)[第2章](#)[第3章](#)[TOP](#)

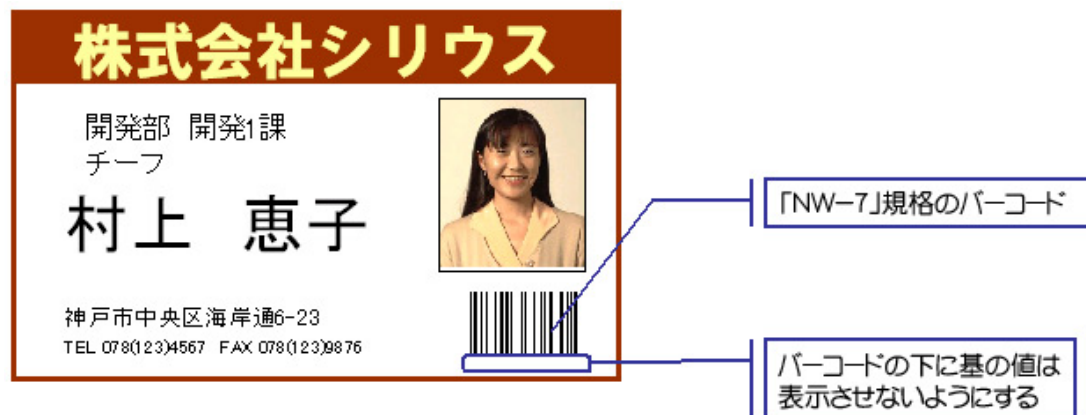
第3章 バーコード徹底活用事例集

- 1: [【実践サンプル1】同時に24枚印刷可能な値札バーコードの作成](#)
- 2: [【実践サンプル2】切取可能なクーポン形式のバーコードの作成](#)
- 3: [【実践サンプル3】英字や記号が混ざったデータのバーコードの作成](#)
- 4: [【実践サンプル4】少ないスペースでコンパクトに印刷できるバーコードの作成](#)
- 5: [【実践サンプル5】郵便料金を節約できるカスタムバーコードの作成](#)

4: 【実践サンプル4】少ないスペースでコンパクトに印刷できるバーコードの作成

「NW-7」規格のバーコードは、「CODE39」や「CODE128」の規格と比べてコンパクトに表示できるため、印刷面積が少ないスペースでも効率的に配置することができます。ここでは、社員の名札の下に配置した社員コードのバーコードを「NW-7」規格で利用できるようにする方法を解説します。なお、ここではセキュリティ面に配慮して、社員コードは非表示にします。

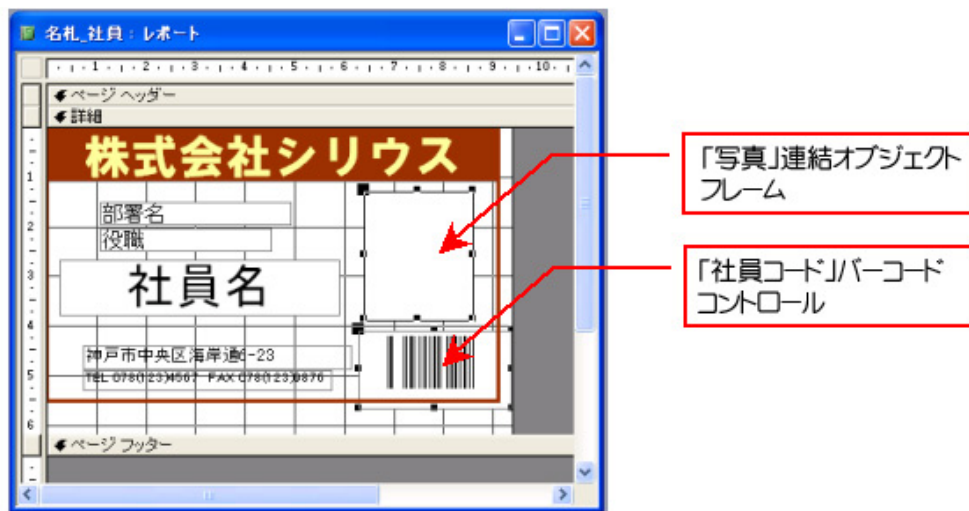
◎ここで作成する印刷物



◆作成までの流れ

レポートのデザインビューから、次のような名札のレポートを作成します。このレポートでは、「社員コード」の値をコントロールソースにした「社員コード」バーコードコントロールを配置し、下のようなプロパティを設定しています。ここではバーコードの基のフィールドの値を非表示にするために、[データの表示(H)]をOFFにしているのがポイントです。社員コードのように、企業内での個人データを第三者に見せたくない場合は、この方法で値を隠しておくのが良いでしょう。

また、このサンプルでは、それぞれの社員の写真を表示するために、「写真」連結オブジェクトフレームを配置して、基の「社員マスタ」テーブルの「写真」フィールド(データ型:OLEオブジェクト型)の値をレコードごとに表示できるようにしています。



◎バーコードコントロールのプロパティ

項目	値
[スタイル(S)]	5-NW-7
[データの表示(H)]	OFFにする
[サブスタイル(U)]	空白
[データの確認(V)]	1-スタート/ストップ文字を付加
[線の太さ(W)]	3-標準
[バーコードの向き(R)]	0-0度

◆「NW-7」規格のバーコードを使うときの注意点

このサンプルの名札のように、バーコードの印刷面積が大きく取れない場合は、数字データをコンパクトに表示できる「NW-7」規格のバーコードを使うと良いでしょう。「NW-7」規格では、数字だけ(桁数は自由)しか扱えませんが、このサンプルで使う社員コードのように、値が数字しかなく桁数も少ない場合には適しています。

「NW-7」規格のバーコードは、バーコードコントロールのプロパティの[スタイル(S)]に「5-NW-7」を指定することで表示できます。なお、「NW-7」規格ではバーコードの基になる値の前後に「ABCD/ABCD」や「abcd/abcd」などの「スタート/ストップ文字」を付加する必要があります。サンプルでは、この仕様に対応するために、[データの確認(V)]に「1-スタート/ストップ文字を付加」を指定しています。なお、この設定を行うと、バーコードの下に表示されるデータの前後に「a」が自動的に付加されます。

※「USB BARScan」の初期設定では、NW-7の読み込み可能な桁数は4桁以上で、「スタート/ストップ文字」には「ABCD/ABCD」が設定されています。

[テクニカル トップページ](#)|[各種製品のご案内](#)|[製品価格一覧表](#)|[製品の修理について](#)|[お問い合わせ](#)

バーコードハンドブック 使い方ガイド

[バーコード入門編](#)[バーコード活用編](#)[バーコード応用編](#)[バーコードフォント無償ダウンロード](#)[テクニカルHP](#)

Barcode HandBooks USB BARScan バーコード応用編

[第1章](#)[第2章](#)[第3章](#)[TOP](#)

第3章 バーコード徹底活用事例集

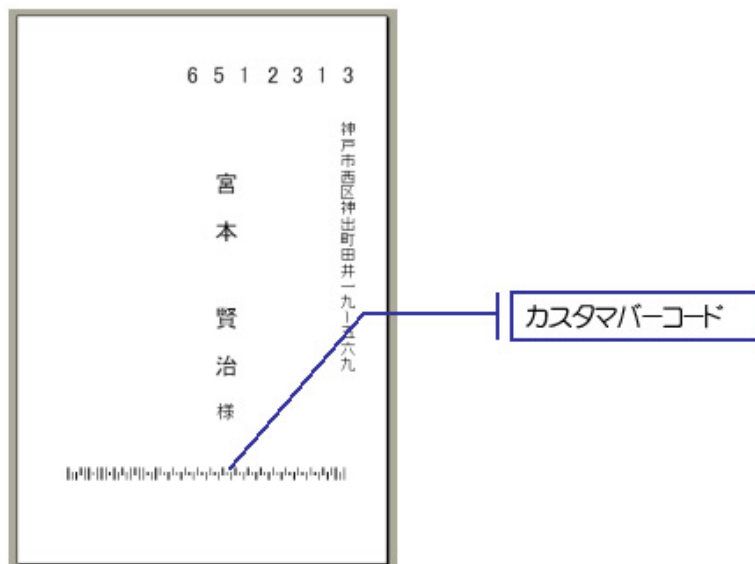
- 1: [【実践サンプル1】同時に24枚印刷可能な値札バーコードの作成](#)
- 2: [【実践サンプル2】切取可能なクーポン形式のバーコードの作成](#)
- 3: [【実践サンプル3】英字や記号が混ざったデータのバーコードの作成](#)
- 4: [【実践サンプル4】少ないスペースでコンパクトに印刷できるバーコードの作成](#)
- 5: [【実践サンプル5】郵便料金を節約できるカスタマバーコードの作成](#)

5: 【実践サンプル5】郵便料金を節約できるカスタマバーコードの作成

バーコードコントロールでは、郵便物を自動処理するためのカスタマバーコードにも対応しています。カスタマバーコードを印刷した郵便物は、1,000通以上まとめて出すと郵便料金が5%割引になる特典があります。ここでは、顧客宛てのDMハガキにカスタマバーコードを付けて印刷する方法を解説します。

※カスタマバーコードの利用方法に関する詳しい内容は、最寄の郵便局にお問い合わせください。

◎ここで作成する印刷物



◆作成までの流れ

Accessでは、ハガキや宛名ラベルを作成する際に、カスタマバーコードを付加することができます。たとえば、この機能を使ってカスタマバーコード付きのDMハガキを作成するには、次の手順で操作します。

【手順1: はがきウィザードの起動】

- ・データベースウィンドウから「レポート」を選択し、[新規作成(N)]ボタンをクリックします。
- ・「新しいレポート」ダイアログボックスから、「はがきウィザード」を選択し、基になるテーブルを選択して[OK]ボタンをクリックします。

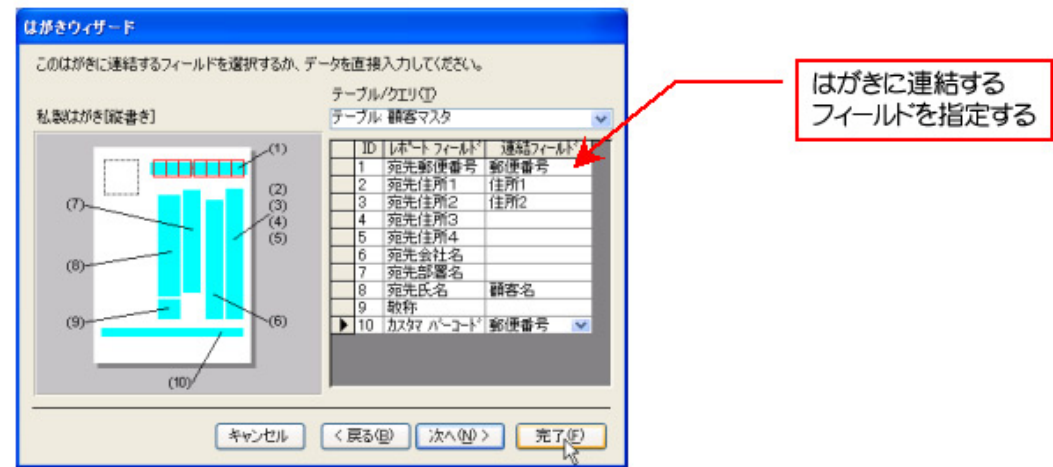
【手順2: はがきの種類の選択】

- ・[はがきのテンプレート]の中から「私製はがき」を選択します。
- ・[文字の向き]に[縦書き]をONにします。
- ・[カスタマバーコードの向き]をONにして、[横]をONにします。
- ・[次へ(N)]ボタンをクリックします。

※ここでは、宛名の印刷は縦書きですが、カスタマバーコードは横向きになるように設定してレイアウトを整えています。これは、カスタマバーコードの向きを縦にすると、住所の先頭にバーコードが大きく表示されてしまい、受け取った相手に対して失礼となる場合があるほか、見た目のバランスも悪くなるからです。

【手順3：印刷する項目の指定】

- ・ はがきに連結するフィールドを次の図のように指定して、[完了(F)]ボタンをクリックします。

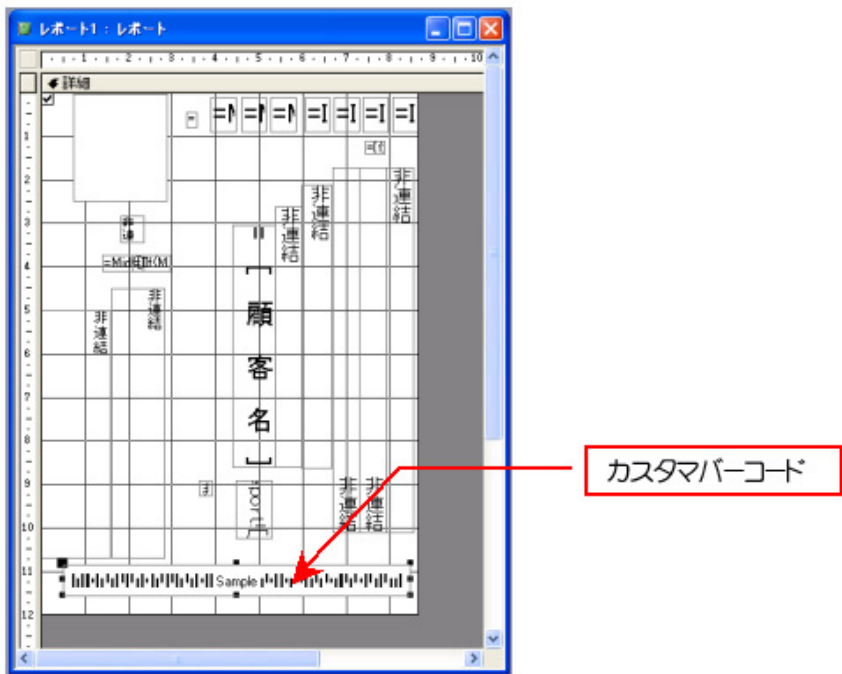


【手順4：カスタマバーコードの参照データの設定】

- ・ 作成されたレポートをデザインビューで開き、カスタマバーコードのバーコードコントロールの上で右クリックして[プロパティ(P)]を選択します。
- ・ 「コントロールソース」プロパティの値を「=[郵便番号]&[住所2]」に変更します。

※[住所2]フィールドには、住所の地番のみのデータが入力されていることとします。
上記の操作を行うと、次のようなレイアウトのハガキのレポートが作成されます。レポートに挿入されたカスタマバーコードは、通常のバーコードコントロールと同様に位置やサイズを変更したり、各種のプロパティを変更することができます。作成された直後のカスタマバーコードには、初期設定で次のようなプロパティが設定されています。

◎作成されたレポート



◎バーコードコントロールのプロパティ

項目	値
[スタイル(S)]	10-カスタマバーコード
[サブスタイル(U)]	空白
[データの確認(V)]	0-無効なら非表示
[線の太さ(W)]	0-極細線
[バーコードの向き(R)]	0-0度

◆カスタマバーコードを作成するときの注意点

カスタマバーコードは、「郵便番号7桁+住所の地番」の値を基にして作成されます。バーコードには、数字、英大文字およびハイフンのみ使用可能で、郵便番号は「-」を除いた値を、住所の地番は丁目や番地を「-」で区切った形式でそれぞれ指定します。たとえば、郵便番号が「151-0073」で住所の地番が「東京都渋谷区笹塚 1-50-1」の場合は、「15100731-50-1」という値をカスタマバーコードで参照できるようにします。

サンプルでは、[手順4]でカスタマバーコードの「コントロールソース」プロパティの値を「=[郵便番号]&[住所2]」に変更することで、この仕様に対応しています。なお、このとき基になる[住所2]フィールドには、住所の地番のみのデータが入力されている必要があります。また、カスタマバーコードで表現できる範囲は、郵便番号と住所を合わせて20文字までのため、範囲を超えた値を指定した場合は20文字以降の値はバーコード化されないので注意が必要です。

※カスタマバーコードにはチェックデジットが付加されますが、自動的に計算されるために、ユーザーはチェックデジットを付加する必要はありません。

※「USB BARScan」は、カスタマバーコードの読み込みには対応していません。

[テクニカル](#) [トップページ](#) | [各種製品のご案内](#) | [製品価格一覧表](#) | [製品の修理について](#) | [お問い合わせ](#)